

令和3年 病害虫防除指導情報 第10号

作物名：ながいも
病害虫名：ナガイモコガ

ナガイモコガの食害が急増しています。
発生の拡大を防止するため、薬剤防除を徹底してください。

1 ナガイモコガの発生状況

- (1) 8月上旬巡回調査における発生地点率、食害葉率は、津軽地域、県南地域ともに平年より高かった（表1）。
- (2) 性フェロモントラップによる成虫の誘殺数は、津軽地域、県南地域ともに平年より多く推移している。現在、津軽地域では第2世代成虫の発生盛期を迎えつつあり、県南地域では第2世代成虫が発生し始めていると見られる（図1）。
- (3) 夏期に高温乾燥が続く場合は発生が多くなる傾向があり、向こう1か月の気温は高いと予想されていることから、今後の気象によっては産卵量とふ化幼虫による食害の増加が懸念される。

表1 8月上旬巡回調査におけるナガイモコガの発生状況

調査時期	地域	年次	調査地点数	発生程度別地点率 (%)					発生地点率 (%)	平均食害葉率 (%)
				甚	多	中	少	微		
7月中旬	津軽	本年	10	0	0	0	10.0	40.0	50.0	0.43
		前年	8	0	0	0	0	0	0	0
		平年	9	0	0	0	2.0	21.9	23.9	0.21
	県南	本年	35	0	0	0	11.4	54.3	65.7	0.39
		前年	28	0	0	0	3.6	32.1	35.7	0.21
		平年	34	0	0	0	11.1	29.8	40.8	0.38
県計	本年	45	0	0	0	11.1	51.1	62.2	0.40	
	前年	36	0	0	0	2.8	25.0	27.8	0.16	
	平年	45	0	0	0	9.5	30.4	39.9	0.36	
8月上旬 (特別巡回)	津軽	本年	10	0	0	0	50.0	40.0	90.0	1.09
		前年	8	0	0	0	50.0	50.0	100	2.99
		平年	9	0	0	0	8.9	57.1	66.0	0.58
	県南	本年	46	0	0	0	63.0	23.9	87.0	3.41
		前年	41	0	0	0	48.8	41.5	90.2	2.64
		平年	42	0	0	0	27.7	56.7	84.5	1.14
県計	本年	56	0	0	0	60.7	26.8	87.5	3.00	
	前年	49	0	0	0	49.0	42.9	91.8	2.70	
	平年	51	0	0	0	24.2	56.4	80.6	1.04	

注) 発生程度：食害葉率 甚 76%以上、多 51~75%、中 26~50%、少 1~25%

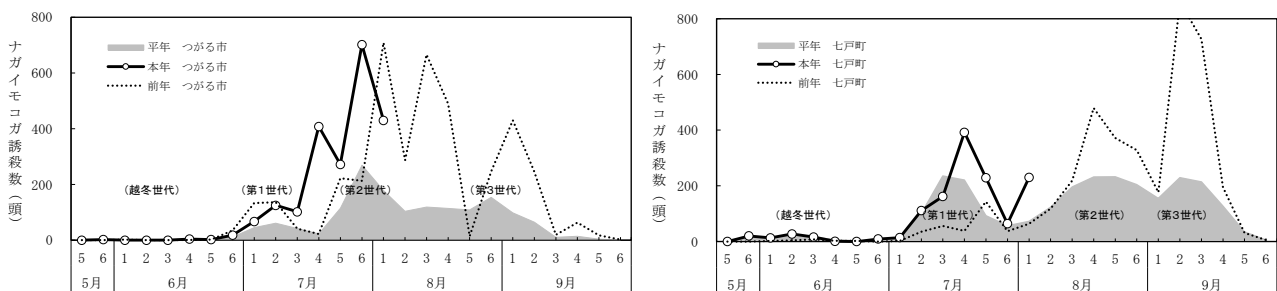


図1 性フェロモントラップによるナガイモコガの誘殺状況

2 防除対策

- (1) 第2世代成虫の発生盛期は、津軽地域が8月上旬、県南地域が8月中旬頃と予想される。成虫の発生盛期は産卵～ふ化時期に当たることから、成虫の飛翔や新しい食害葉が見え始めたら殺虫剤を散布する(表2)。
- (2) 薬剤は下葉や葉裏にも十分かかるようにし、1回目散布の7～10日後に再散布すると効果的である。なお、8月後半以降は成虫の密度が高まるとともに、幼虫や蛹、成虫といった各発育形態が混在するため、散布間隔が開き過ぎないように定期的な薬剤散布を行う。

表2 ナガイモコガの防除薬剤一覧

農薬名	I R A C コード	有効成分	使用方法				適用病害虫名		浸透移行性
			希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	成分総使用回数	アブラムシ類	ナガイモコガ(ヤマノイモコガ)	
普 オルトラン水和剤	1B	アセフェート	1000	収穫45日前	1回	1回	○	○	○
普 アディオオン乳剤	3A	ペルメトリン	2000 2000～3000	収穫7日前	5回	5回以内	○	○	×
普 トレボン乳剤	3A	エトフェンブロックス	1000	収穫14日前	3回	3回以内	○△	○△	×
普 トレボンエアー	3A	エトフェンブロックス	8倍を3.2L/10a 無人航空機散布	収穫14日前	3回	3回以内	○	○	×
劇 マブリック水和剤20	3A	フルバリネート	2000～4000	収穫7日前	2回	2回以内	○	○	×
劇 モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	4000	収穫7日前 収穫21日前 種芋掘取り7日前	3回 5回	3回以内 5回以内	○ △ □	○ △ □	○
普 ベネビアOD	28	シアントラニリプロール	4000	収穫7日前	3回	3回以内	○	○	○
普 アタブロン乳剤	15	クロルフルアズロン	2000	収穫7日前	3回	3回以内		○△	×
劇 コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	2000	収穫前日 収穫3日前	2回	2回以内		○ △	×
普 フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2000	収穫前日 収穫14日前	2回	2回以内		○ △	×
普 プレバゾンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	2000	収穫前日	3回	3回以内		○	○

注) △印は、各々の病害虫を対象に「むかご」にも使用できることを示す。ただし、フェニックス顆粒水和剤、コテツフロアブル及びモスピラン顆粒水溶剤は、ながいもに使用する場合と収穫前日数が異なるので注意する。

————— 農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください —————

短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用してください。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>
 (独) 農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」
http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

～青森県農薬危害防止運動展開中！(5月1日～8月31日)～

- 農作物や使用者の安全のため、農薬は使用基準を守って使用しよう！
- 農薬散布の際は、周辺に農薬を飛散させないようにしよう！

県民の皆さまへのお願い
 新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakuudaiboushi.html>

【この情報に関する問合せ先】

青森県病害虫防除所 担当：主幹 品川 聖也
 〒030-0113 青森市第二問屋町 4-11-6
 TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900